

東京消防庁へ「救急用コミュニケーション支援ボード」を寄贈！

明治安田生命保険相互会社（執行役社長 根岸 秋男）の関連財団である公益財団法人明治安田こころの健康財団（理事長 津坂 睦彦）は、東京消防庁に「救急用コミュニケーション支援ボード」を合計1,900部提供しました。

当社では、明治安田生命グループをあげて、地域社会のニーズに応える社会貢献活動に取り組んでいます。今回の寄贈はその一環として、障がいを持つ方や外国の方などとのコミュニケーションのバリアフリー実現を企図し、実施しました（※）。

当社は、今後もさまざまな取組みを通じ、地域社会によりいっそう貢献していきます。

※別途、全国の都道府県警察に「警察版コミュニケーション支援ボード」147,000部を寄贈しています。詳細は下記リリースをご参照下さい。

http://www.meijiyasuda.co.jp/profile/news/release/2016/pdf/20160405_01.pdf

1. 「救急用コミュニケーション支援ボード」について

「救急用コミュニケーション支援ボード」は、話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある人（知的障がいや自閉症、聴覚障がいの方や日本語を話せない外国の方など）へのサポートツールです。今回外国人居住者や訪日外国人の増加、および今後の東京オリンピック・パラリンピック等の国際イベントの開催を踏まえ、イラストの追加や対応言語の多様化を進めた「救急用コミュニケーション支援ボード」を東京消防庁へ提供しました。

【救急用コミュニケーション支援ボード】



救急隊用



消防隊用

2. 提供部数等

用途に応じて、救急隊用800部、消防隊用1,100部、計1,900部の「救急用コミュニケーション支援ボード」を提供しました。

【寄贈式の様子】



3. 「救急用コミュニケーション支援ボード」にかかるこれまでの取組み

時期	取組み
2003年	話し言葉によるコミュニケーションにバリアのある人（知的障がいや自閉症、聴覚障がいの方や日本語を話せない外国の方など）へのバリアフリー啓発活動として、サポートツールであるコミュニケーション支援ボードを作成。駅、学校、福祉施設、観光案内所等に設置するとともに、その普及活動を実施
2011年	東京消防庁協力のもと、「救急用コミュニケーション支援ボード」を作成し、東京消防庁へ提供
2016年	外国人居住者や訪日外国人の増加、および今後の東京オリンピック・パラリンピック等の国際イベントの開催を踏まえ、対応言語の追加などの改訂を実施のうえ、東京消防庁へ提供

4. 明治安田こころの健康財団について

1965年3月に財団法人安田生命社会事業団として設立し、2004年4月に財団法人明治安田こころの健康財団と名称を変更し、2012年4月に公益財団法人へ移行しました。当財団は、子どもの健全な育成を通じた社会貢献活動をめざし、自閉症や発達障がいの子どもの療育相談、子どもの抱える心理的な問題の相談、精神保健にかかわる専門家育成のための研修、精神保健にかかわる研究助成等の活動を行なっています。